別紙

「Smart Home Medical Care」実証実験結果要旨

■目的:

在宅医療における「Smart Home Medical Care」の有用性について実証実験を株式会社オプティム（以下オプティム）と社会医療法人 祐愛会織田病院（以下 織田病院）との共同で実施しました。

- 対象者　織田病院のスタッフ 21 名および通院患者 47 名
- 期間　2016 年 10 月 26 日～2018 年 3 月 8 日
- 調査方法　スタッフへのアンケート調査（オプティム所定のアンケート用紙への記入）
  患者へのアンケート調査（織田病院所定のアンケートへの回答）

■結果:

アンケート調査の結果、約 5 割のスタッフが「Smart Home Medical Care」の利用により業務改善につながったと回答しました。最も多かった理由としては、「不必要な臨時訪問の削減等による業務量の削減ができた」でした。また、約 6 割の患者が「Smart Home Medical Care」を利用することにより安心感につながったと回答しました。
また、「Smart Home Medical Care」の特長でもあるテレビを用いたビデオ通話の仕組みについて、スタッフの 9 割の方からご賛同をいただき、患者からの意見でも、タブレットよりテレビのほうが使いやすいという結果となりました。

対象スタッフ 21 名の年代別割合

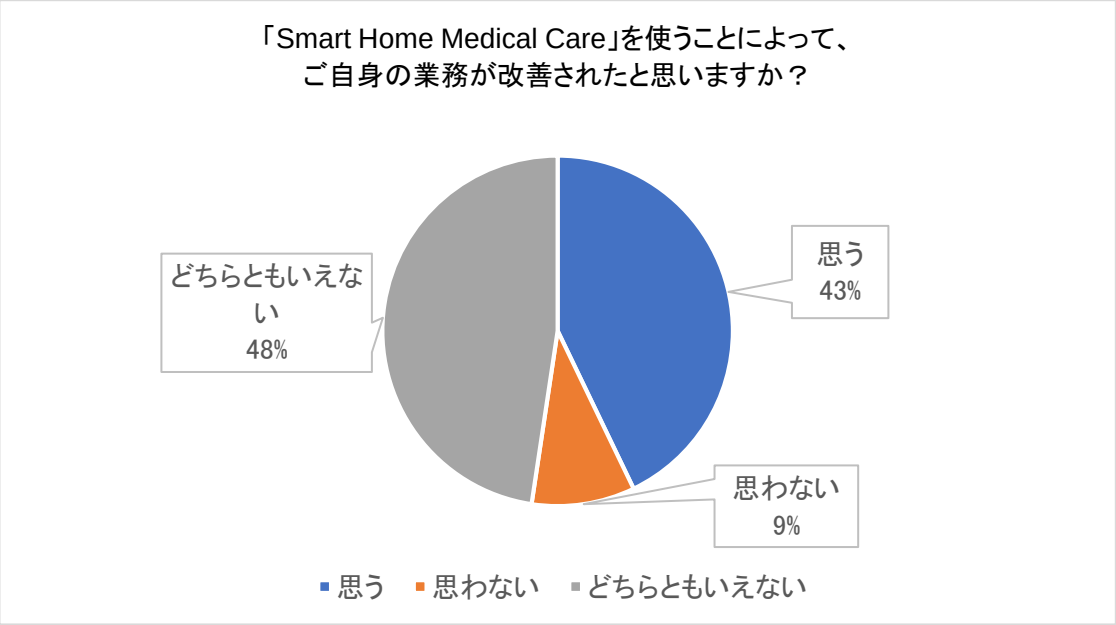
年齢	～20 代	30 代	40 代	50 代～	未回答
人数	5%	9%	38%	48%	0%

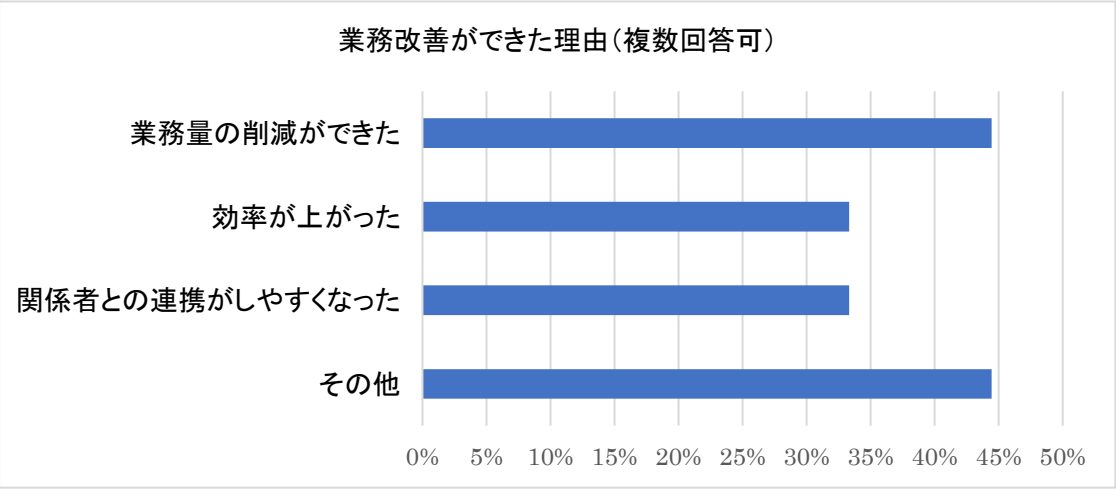
対象患者 47 名の年代別割合

年齢	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	未回答
人数	13%	19%	26%	17%	23%	2%

＜業務改善に関する結果（スタッフ）＞

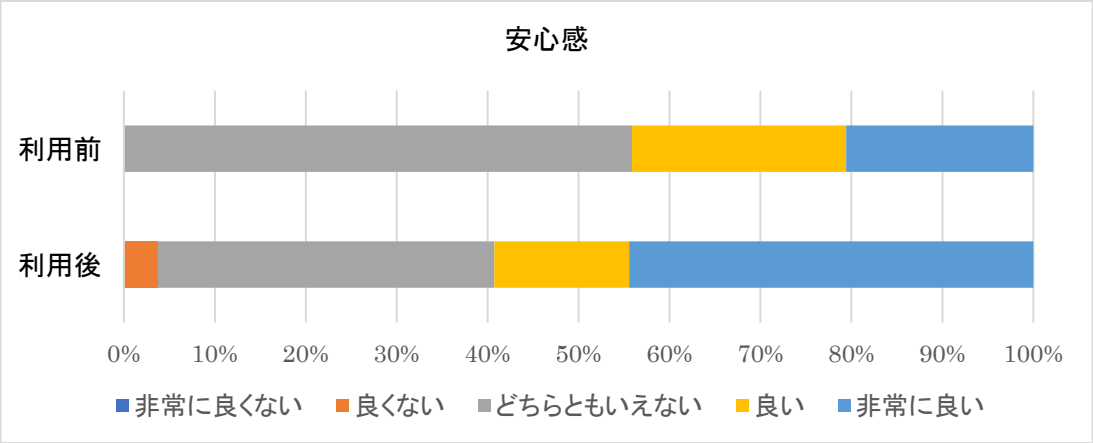
スタッフに対し、『「Smart Home Medical Care」を利用することで自身の業務改善につながったか』を調査したところ、43%の方が「自身の業務が改善につながった」と回答しました。具体的な改善内容として、「業務量が削減した（44%）」が多く挙げられています。具体的には、遠隔から患者の様子を見れることにより、前日に気になった点をすぐ確認でき、臨時訪問の削減につながったという意見がありました。





＜在宅利用の質向上に関する結果（患者）＞

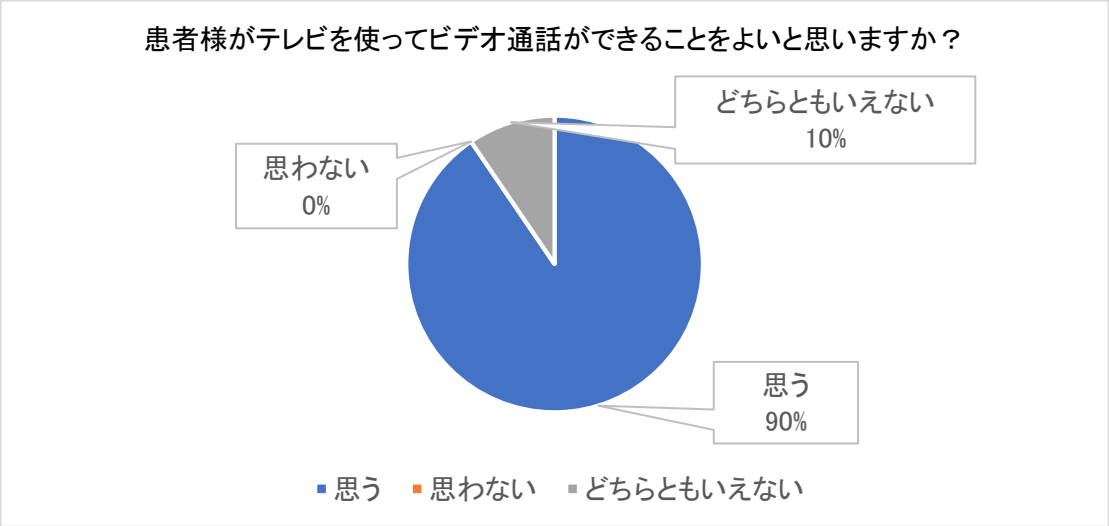
患者に対し、「Smart Home Medical Care」を利用することによる安心感について調査したところ、「Smart Home Medical Care」を利用する前では半数以上の 56%が「どちらともいえない」という回答であったのに対し、利用後では「良い」「非常に良い」という回答が増加し、59%となりました。

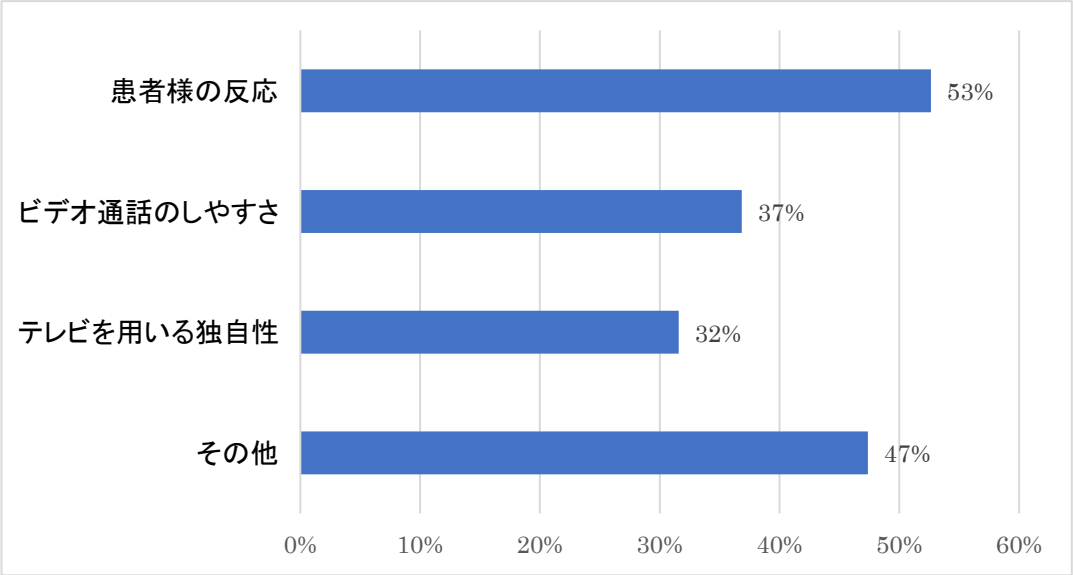
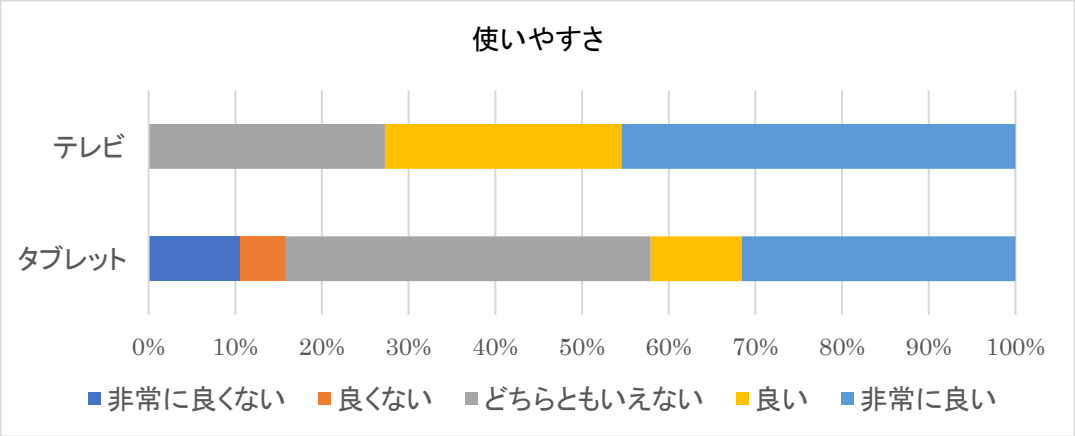


＜テレビの利用に関する結果＞

「Smart Home Medical Care」の課題の一つとして、高齢者の多くがタブレットを扱えないことが挙げられていました。実証実験初期では「Smart Home Medical Care」でビデオ通話を実施する際にタブレットを利用していましたが、高齢患者でも扱えるような、IT リテラシーが高くなくとも利用しやすいサービスを実現するために、日ごろからご利用されているテレビを用いてビデオ通話ができるように改良しました。

上記の対応を踏まえ、スタッフの方へ「Smart Home Medical Care」においてテレビを用いたことについて、「患者様がテレビを使ってビデオ通話ができることをよいと思いますか？」という調査を行ったところ、90%の方に「良いと思う」とのご賛同をいただきました。また、ご賛同いただいた理由について「抵抗感のないテレビを用いることで患者様の反応がよかった（53%）」「大きな画面で表示されることにより、目の悪い患者も映像を見やすく、ビデオ通話がしやすい（37%）」というご意見がありました。





また、患者へ「Smart Home Medical Care」に対する使用感に関する調査を行ったところ、タブレットを利用した患者で「非常に良い」「良い」と回答した患者は 43%だったのに対し、テレビを利用した患者だと72%となりました。